

個人投資家向け会社説明会



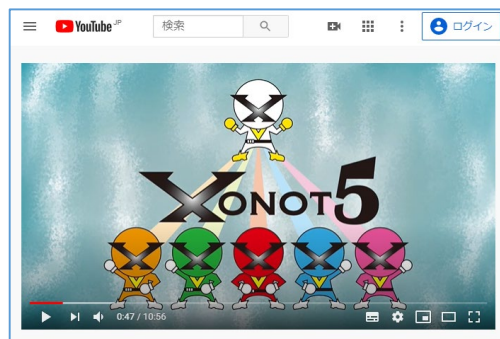
2022年12月2日

防災・省エネを通じて、産業・社会や地球環境に貢献する



1. 決算報告	P.3
2. 当社グループの概要	P.10
3. 当社グループの事業	P.15
4. 当社グループの強み	P.22
5. 今後の方針	P.27
6. 中期経営計画の概要	P.34
7. 今期のトピックス	P.41
8. (参考) 決算実績等	P.44

～会社紹介動画もぜひご覧ください～
<https://youtu.be/nLBraAnkct4>



「XONOT5」について

日本インシュレーションは、独自のXonotlite製造技術を活用して、都市防災や省エネルギーを通じ産業・社会に貢献しています。

私たちは、そのことをゾノトライトの戦士「XONOT5」で表現しています。



○→Xonotlite (ゾノトライト)

●→Fireproof (耐火)

●→Ecology (環境・エコ)

●→Reliable Quality (安全・品質)

●→Energy Saving (省エネ)

●→Diversity (ダイバーシティ)

- ・ 2023年3月期第2四半期は、ここ数年続いていたプラント関連の大型建設工事が一服。前年度同期比で減収となったが、予想されていた水準で推移。
- ・ 利益は、原料・燃料費の高騰が影響し減益となった。
- ・ セグメント別では、建築関連は、工事部門で比較的堅調に推移も、物流関係の大型工事受注が振るわず、前年同期比微減。販売部門で耐火被覆材、内装仕上げ材等が徐々に回復、前年同期比で増加。
プラント関連は、工事部門で、メンテナンス関係が比較的堅調も、大型建設工事が一服し前年同期比減少。販売部門で、国内一般顧客向け製品及び海外子会社製品等の需要が徐々に回復、価格転嫁が寄与し、前年同期比増加。
- ・ 5月12日に公表した業績予想について、2四半期実績は販売受注の回復、製品価格の値上げ、合理的な原価管理の徹底等により、予想を上回る結果となったが、通期の連結業績予想については、原料、燃料の価格高騰や供給面での制約等の影響が今後もリスクとなるため、公表予想数値を据え置いた。
(売上高12,900百万円、親会社株主に帰属する当期純利益894百万円)



連結売上高・経常利益・当期純利益

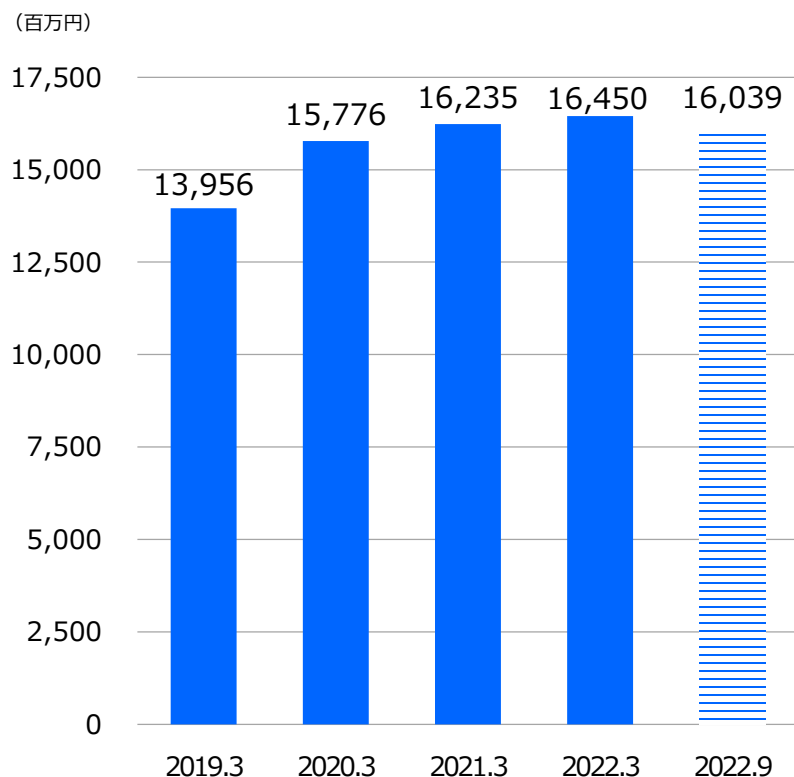
- 2023年3月期第2四半期の売上高は5,833百万円となりました。
- 損益として、経常利益が497百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は319百万円となりました。



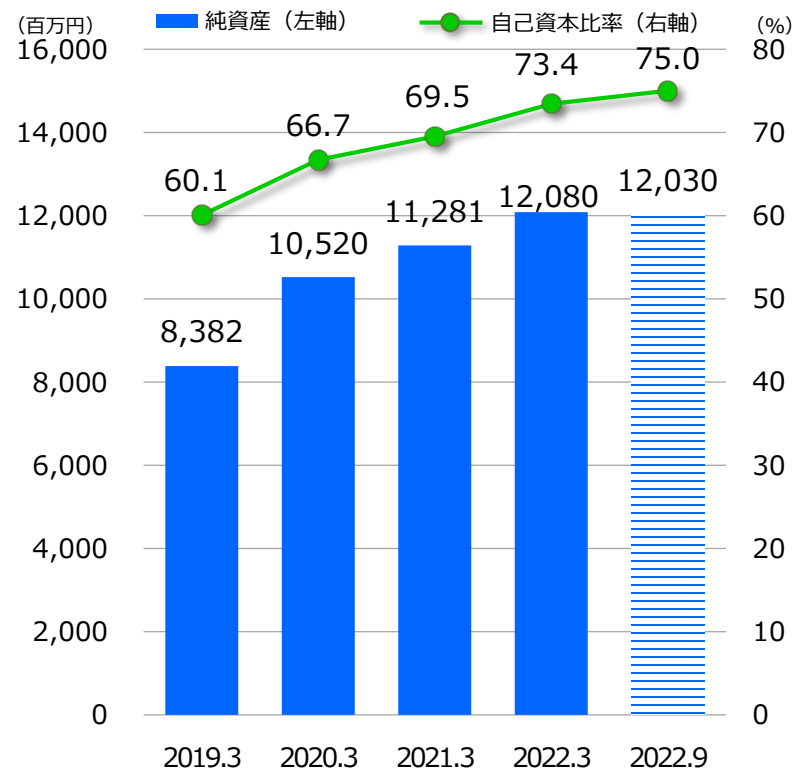
総資産・純資産・自己資本比率

- 自己資本比率は着実に増加しています。

総資産



純資産 / 自己資本比率



建築関連事業

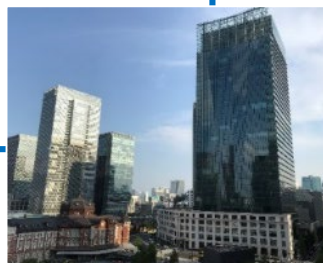
24億円／42.0%

- 耐火被覆材、内装仕上材等の販売・施工

主な用途市場

建築基準法に基づく防・耐火処置が必要とされる建築分野

- オフィスビル
- 商業施設（ショッピングモールなど）
- 物流施設
- 生産施設（工場など）
- 交通施設（空港や駅など）



プラント関連事業

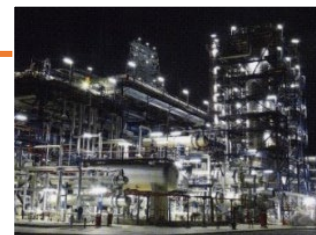
34億円／58.0%

- 保温材等の販売・施工

主な用途市場

各種の熱機器を使用するプラント分野

- 火力及び原子力発電プラント
- 石油精製・石油化学プラント
- 化学プラント
- 製鉄プラント
- その他プラント



2023年3月期
第2四半期
連結売上高
58億円

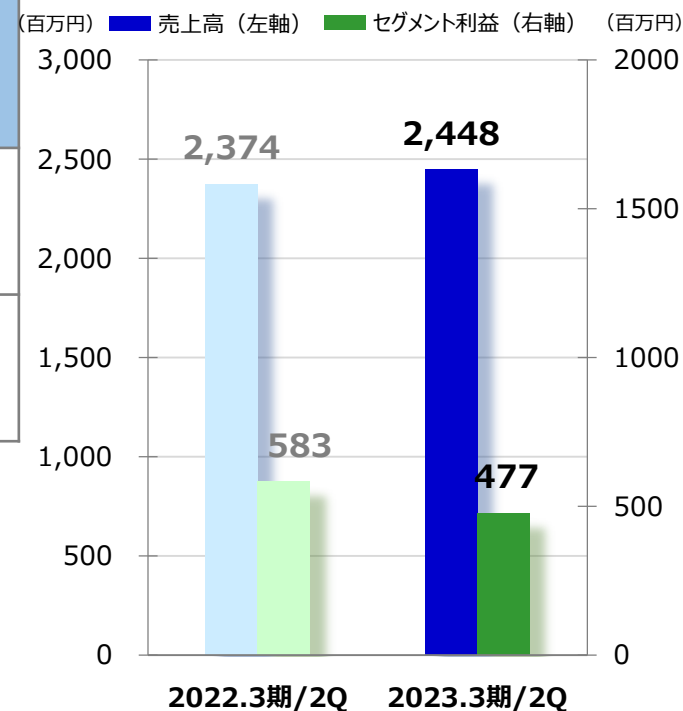


セグメント別の状況 建築関連事業

(単位：百万円、%)

	2022/3期 2Q累計	2023/3期 2Q累計	増減	増減率
売上高	2,374	2,448	+74	+3.1
セグメント利益	583	477	△106	△18.2

- 工事部門は、物流関係の大型工事案件の受注が振るわず、工事売上高は前年同期比で微減。
- 販売部門は、耐火被覆材、内装仕上げ材等が徐々に回復し、販売売上高は前年同期比で増加。

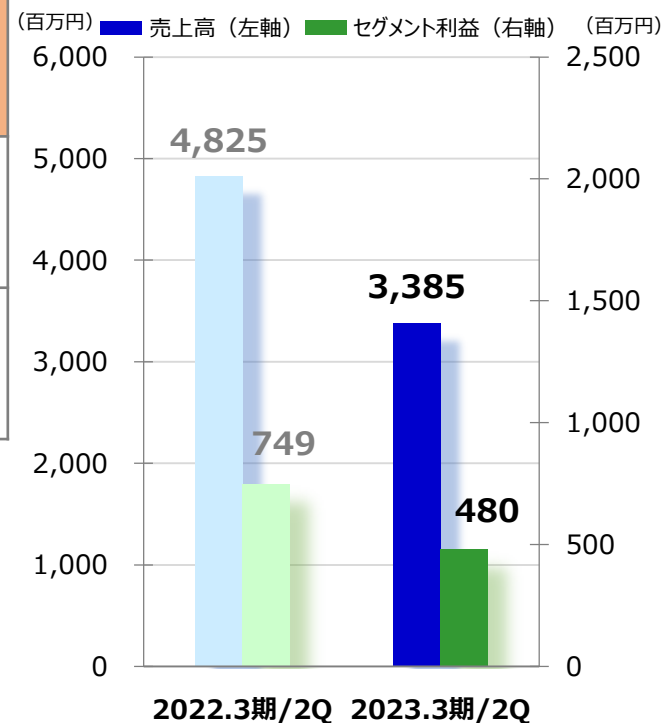


セグメント別の状況 プラント関連事業

(単位：百万円、%)

	2022/3期 2Q累計	2022/3期 2Q累計	増減	増減率
売上高	4,825	3,385	△1,440	△29.8
セグメント利益	749	480	△269	△35.9

- 工事部門は、大型建設工事等が一服したことから、工事売上高は前年同期比で減少。
- 販売部門は、国内一般顧客向け製品及び海外子会社製品等の需要が徐々に回復、価格転嫁の寄与もあり、販売売上高は前年同期比で増加。



2022年3月期 期末業績予想

- 期末業績予想は、大型建設工事の減少、原料・燃料費の高騰による原価増加のために対前期比で減収減益の見込み

(単位：百万円、%)

	2022年3月期 実績	2023年3月期業績			前年同期比
		上期実績	下期予想	通期予想	
売 上 高	14,118	5,833	7,066	12,900	91.4
営 業 利 益	1,861	508	942	1,451	78.0
経 常 利 益	1,891	497	952	1,449	76.6
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	1,145	319	574	894	78.0



当社グループの概要

社名	日本インシュレーション株式会社 JAPAN INSULATION CO., LTD.
創業	1914（大正3）年4月8日
設立	1949（昭和24）年1月14日
代表者	代表取締役社長 吉井 智彦
本社	大阪府大阪市中央区南船場一丁目18番17号
資本金	1,200百万円（2022年3月末現在）
連結業績	●売上高：14,118百万円 ●経常利益：1,891百万円（ともに、2022年3月期）
従業員数	●連結：357人 ●単体：302人（ともに、2022年3月末現在）
事業内容	ゾノライト系けい酸カルシウムを基材とした 各種の防耐火建材、保温材等の製造、販売及び設計・施工
グループ会社	海外連結子会社：1社（ジェイアイシーベトナム 有限会社）



当社グループの歩み

高耐熱性の
ゾノライト系
けい酸カルシウム材の
工業化に
世界で初めて成功



1930年
大阪新工場
(大阪市西成区)

1949年 設立
株式会社に改組

1960年
岐阜工場
(岐阜県)

1966年

1989年
北勢工場
(三重県)

1989年 社名変更
「日本インシュレーション株式会社」に改称

2014年 海外子会社
ベトナムに100%子会社設立

2016年
ベトナム工場
(ベトナム)

2014年【創業100周年】

＜ JICの世界初・日本初 ＞

- 1966年 ゾノライト製法開発 世界初
- 1968年 ゾノライト新製法が、けい酸カルシウム耐火被覆材の耐火構造認定の基礎となる
- 1976年 ゾノライト新製法が、けい酸カルシウム保温材のJIS規格の基礎となる
- 1994年 ISO9000シリーズ認証取得 国内建材メーカーで初
- 1996年 新JIS認証取得 建材試験センターの第1号認証取得
- 2008年 DBJ環境格付 中堅企業で国内初
- 2016年 もみ殻由来保温材「ダイパライト-E」実用化 世界初

1914年 創業
個人事業「大阪パッキング製造所」設立
⇒1936年に合名会社に改組

1927年
大阪工場
(大阪市西区に移転)

戦前

戦後 (1945年～)



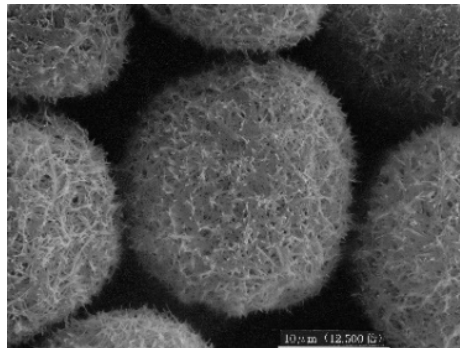
ちょっとマニアックな「ゾノライト」の話

【高耐熱性のゾノライト系けい酸カルシウム材】

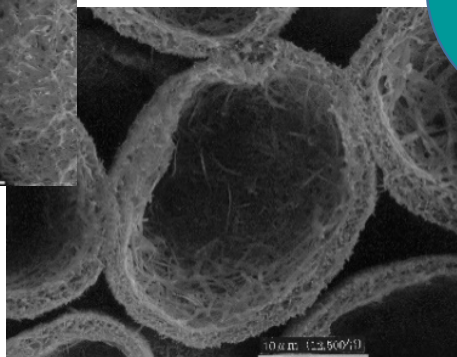
1000℃に耐えることで…

- 鉄骨の建物を倒壊から守ることができる
- 高効率な発電装置の高温環境でも使用できる

保温材向け



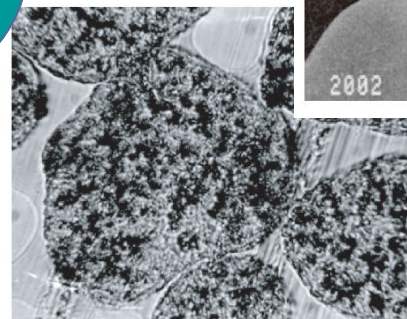
↓ 断面



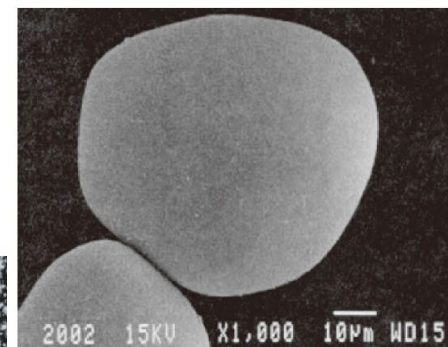
中空で内部の空気が
断熱性を高める

ゾノライト
2次粒子

↓ 断面



建材向け



充実で
強度が高い

耐熱性の違い

トバモライト

最高使用温度650℃



加熱前



従来

1000℃で加熱後



結晶の中
の水分量
が耐熱性
に影響し
ている

ゾノライト

最高使用温度1000℃

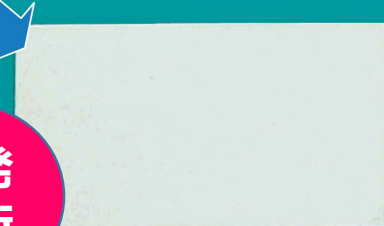


加熱前



開発
技術

1000℃で加熱後



日本インシュレーション

熱、電気、音、振動などの
絶縁材・絶縁行為の意味

社名に込めた意思



主に耐火・保温・断熱等、熱を対象とした絶縁材の製造
と絶縁工事を通じ、

省エネルギー化による地球環境の保全と、
建築物の防・耐火化による人命・財産の保護を通じ、
産業・建物の防災・強靱化に貢献する



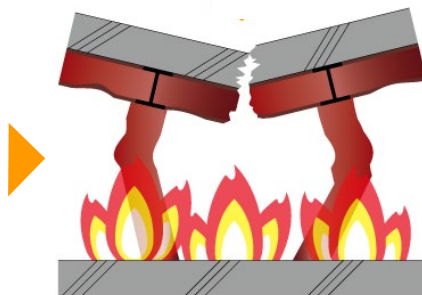
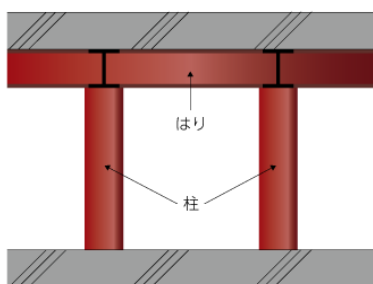
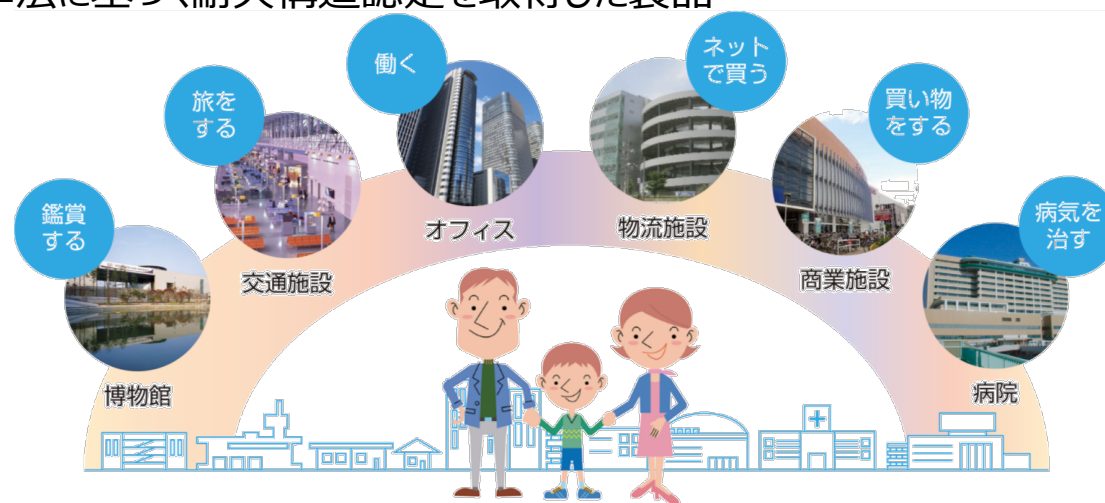
当社グループの事業

■ 建物の防災

* 耐火被覆材とは・・・

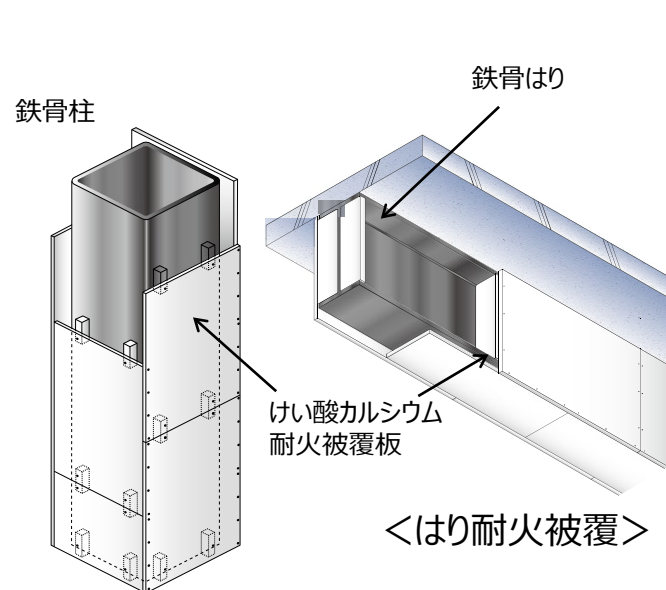
熱に弱い鉄骨のはり・柱、免震装置など、建物の構造部材を被覆

⇒ **火災時に、火炎や熱から守り、建物の倒壊を抑制する役割を担う**
建築基準法に基づく耐火構造認定を取得した製品



- 鉄は400℃を超えると大きく強度が低下します。1000℃を超える火災に遭うと、鉄骨造の建物は倒壊してしまいます。
- 熱に弱い鉄骨の柱やはりを被覆して建物の倒壊を抑制する役割を担うのが耐火被覆材です。





はり柱の耐火被覆

タイカライト



柱の耐火被覆（オフィス）



柱・はりの耐火被覆（物流施設）

けい酸カルシウム耐火被覆材の特徴

（他の耐火被覆材との比較）

- 乾式工法で工期短縮に貢献
- 工場成型品で品質が安定
- 仕上げ兼用で柱を細くできる
（＝有効床面積を大きく取れる）
- ボードなので見栄えが良い



はりの耐火被覆（商業施設）

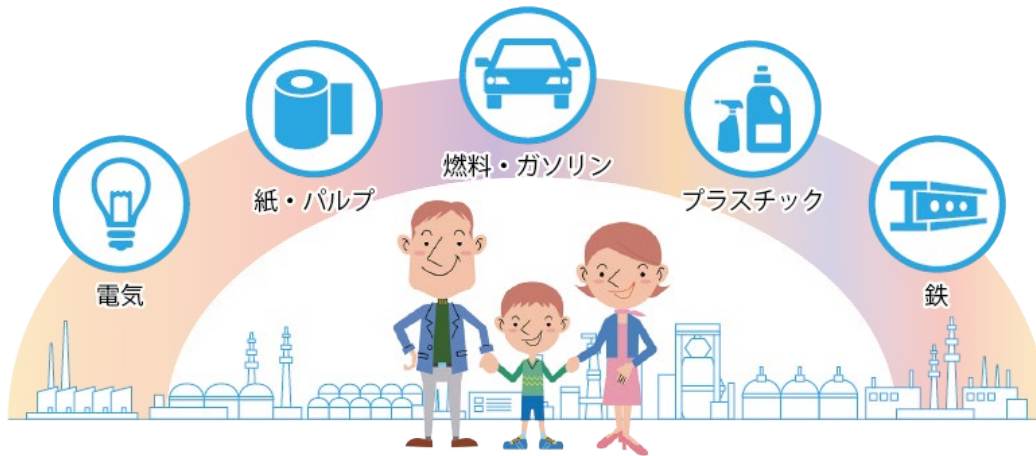


EVシャフト・ブレースの耐火被覆（複合ビル）

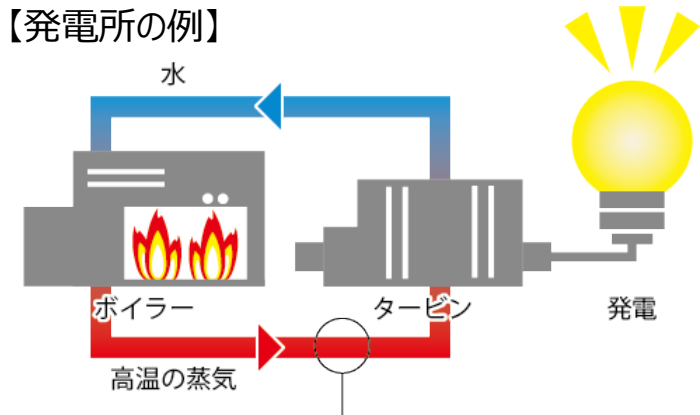


プラント関連事業の概要

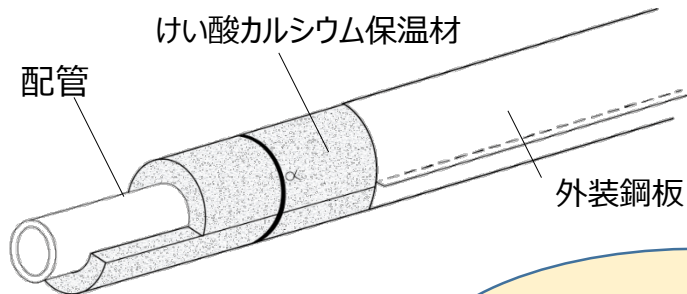
■工場・設備の省エネルギー



【発電所の例】



【保温材の施工例】

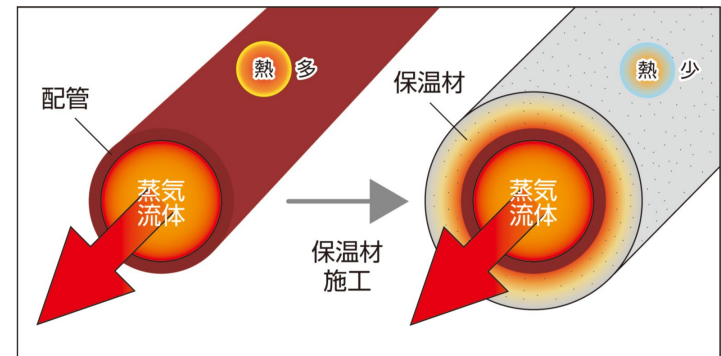


保温しないと、
どんどん
熱が逃げていくよ!!

* 保温材とは・・・

工場の配管や機器を被覆して内部の熱を
逃さないようにする製品

⇒ エネルギーのムダを防ぐ役割を担う



プラント関連事業 ～主力製品の紹介～

ダイパライト



当社のけいカル保温材の特徴

- 軽量で高い断熱性
- 1,000℃と極めて高い耐熱性

発電所や製鉄所、化学工場などの高温の蒸気や流動体を通る配管や機器の保温にはどんなものいいだろう？



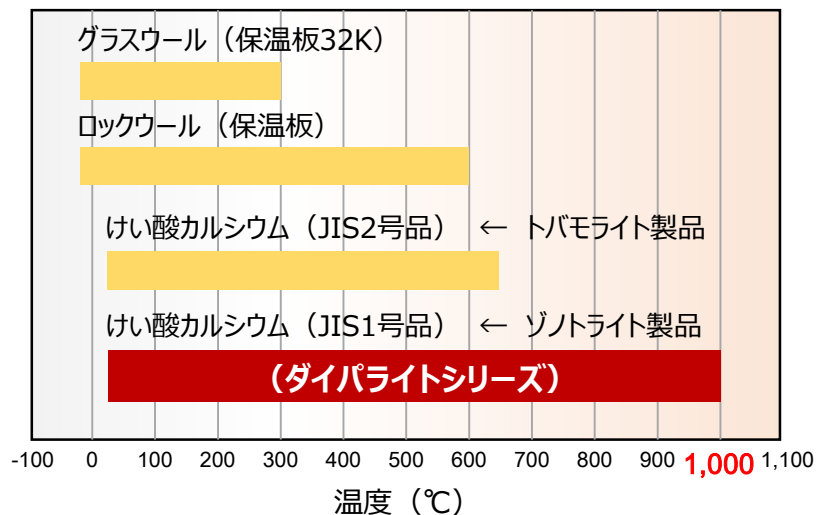
JICの保温・断熱材は1000℃の熱にも耐えられる「ゾノライト」でできているよ。だから、他の断熱材では適用できないところでも使われているんだ！



JICは、保温材の提供を通じて、工場の省エネルギーに貢献しているよ



【各種保温材の使用温度比較】



保温材取付け (施工中)



施工完了

- 高層ビルなどの建築物が集中する都市部からプラント施設が集中している地域まで、営業拠点を全国展開

建築関連事業

- ・ 営業開発グループ
- ・ 関東支社
営業グループ
販売グループ
- ・ 東北営業所
- ・ 関西支社
営業グループ
販売グループ
- ・ 中部営業所
- ・ 九州営業所



プラント関連事業

- ・ プラント海外営業部
- ・ プラント営業開発部
- ・ プラント販売部
東京販売グループ
大阪販売グループ
九州販売グループ
- ・ 東日本支社
鹿島営業所
京浜営業所
新潟営業所
苫小牧出張所
福島出張所
女川作業所
- ・ 京葉支社
千葉営業所
- ・ 西日本支社
三重営業所
倉敷営業所
大阪営業所



国内最大の供給・アジア販路拡大のための工場体制

国内2工場で150名体制



海外1工場で
60名体制



岐阜工場

▶ 主に、**プラント市場向け製品**（保温材）を生産

北勢工場

▶ 主に、**建築市場向け製品**（耐火被覆材、不燃意匠内装材等）を生産

ベトナム工場

▶ 主に、**東南アジア・東アジアのプラント市場向け製品**（保温材）を生産



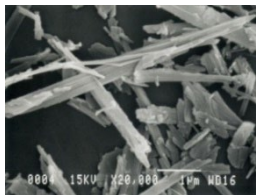
当社グループの強み

1 独自の製造技術力と、他分野展開に結びつく研究開発

2 自社工場製造と材工一貫による高い収益性の実現

3 長年にわたり育んできた安定した顧客基盤



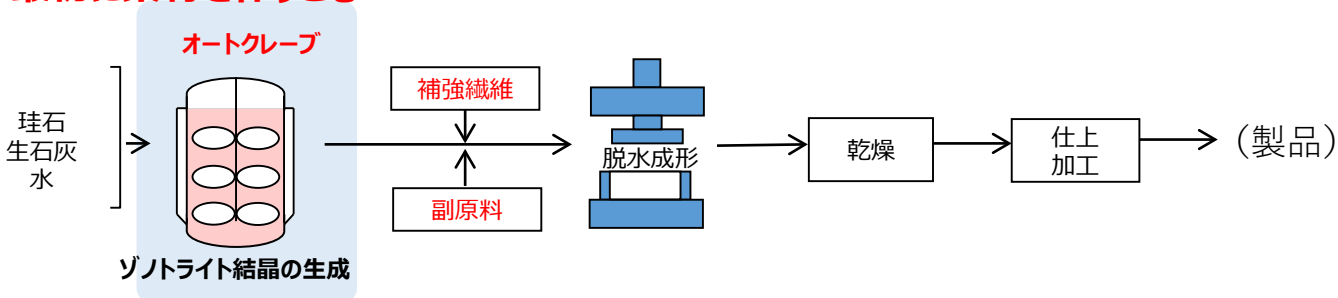


当社製法

ゾノライト系
けい酸カルシウム
製造方法

膨大なノウハウの蓄積が不可欠な製造技術を確立

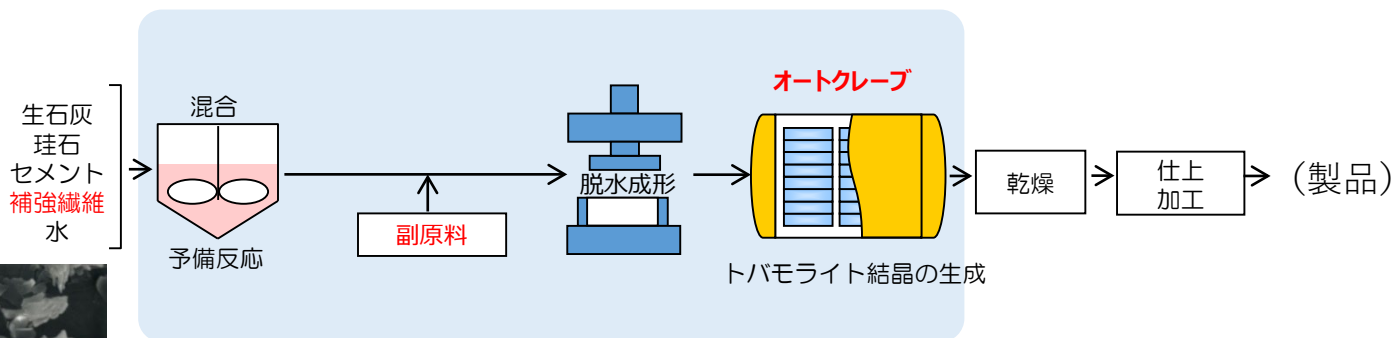
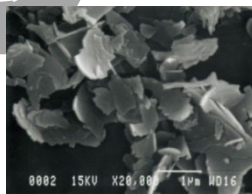
最初に素材を作りこむ



この製造技術が耐火被覆材・保温材の無石綿化の基礎となり、
海外技術輸出へとつながった

従来製法

トバモライト系
けい酸カルシウム
製造方法



網掛け部分は強アルカリの環境

実施製造・出荷から施工に至る プロセスを**自社一貫管理**

高い収益性と 品質管理を実現

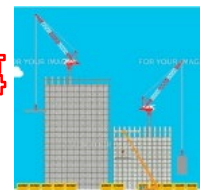
自社工場で、
工事現場の施工者が
作業しやすいよう、
荷積みや梱包する。

⇒ **施工現場での
作業生産性がアップ！**

自社工場



自社工事



自社の工場から材料を
仕入れるので、
マージンがかからない。
⇒ **産地直送！**

工場でプレカット出荷し、
現場廃材を極小化。

⇒ **環境にやさしく、
コスト削減！**



**営業から工場へ
細やかな指示**

自社製品なので、
工場も納期調整も容易。
必要な材料の増減も迅速対応
⇒ **材料の無駄がない！**

製品輸送



長年にわたり育んできた**安定した顧客基盤**



東京・大手町

建築事業



物流施設



大阪・中之島

プラント事業

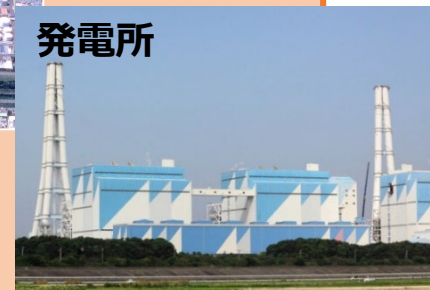
石油化学工場



石油精製工場



発電所



施主・設計事務所
ゼネコン

顧客基盤

電力・石油・石化・鉄鋼会社
エンジニアリングメーカー





副原料として機能材を添加し、新しい機能商品を開発し、お客様に提供しています

建築で

関連資材

ライニング材
調湿資材
住宅用断熱材

関連工事

石綿除去工事

建物の
防火材・耐火材
&
耐火被覆工事

幅広い生活分野で

機能材
CFRP型材
学校教材
サイン材
粉体

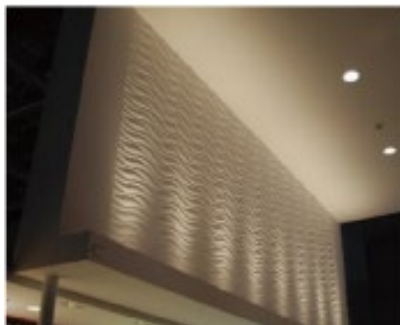
用途開発による新市場創出

■ 燃えない素材特性に機能添加

- ✓ けい酸カルシウム材に樹脂を混合して、加工性を増強した材料を、いろいろな用途に展開
- ✓ 精度よく加工でき、高耐熱性の材料

- ・不燃デザインパネル
- ・炭素繊維強化プラスチック用型材
- ・学校教材、版画材料
- ・サイン材料

不燃デザインパネル施工例
(展示施設)



炭素繊維強化プラスチック用型材
(レーシングカー部品の例)



JICは、建物の耐火性能の向上要求に適用できる製品を開発し、提供しています



●用途開発による新市場創出

■ 免震装置の耐火 *めいしんたすけ* シリーズ



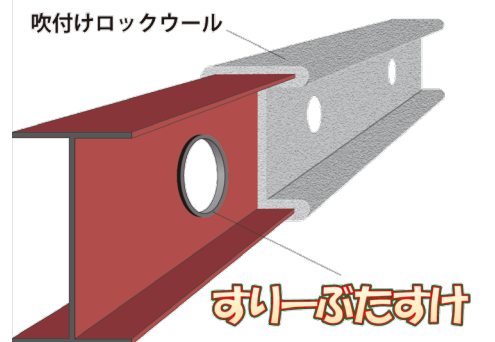
耐火パネル

免震装置用耐火被覆材

免震建物は地震に強いけど火には弱いからなあ...



■ はりの設備配管が貫通する部分の耐火



はり貫通部耐火被覆材

■ 通信ケーブルが防火壁を貫通する部分の耐火 ケーブル延焼防止材



延焼防止材

通信ケーブル

ケーブルを通すために開けた穴を塞ぐんだ

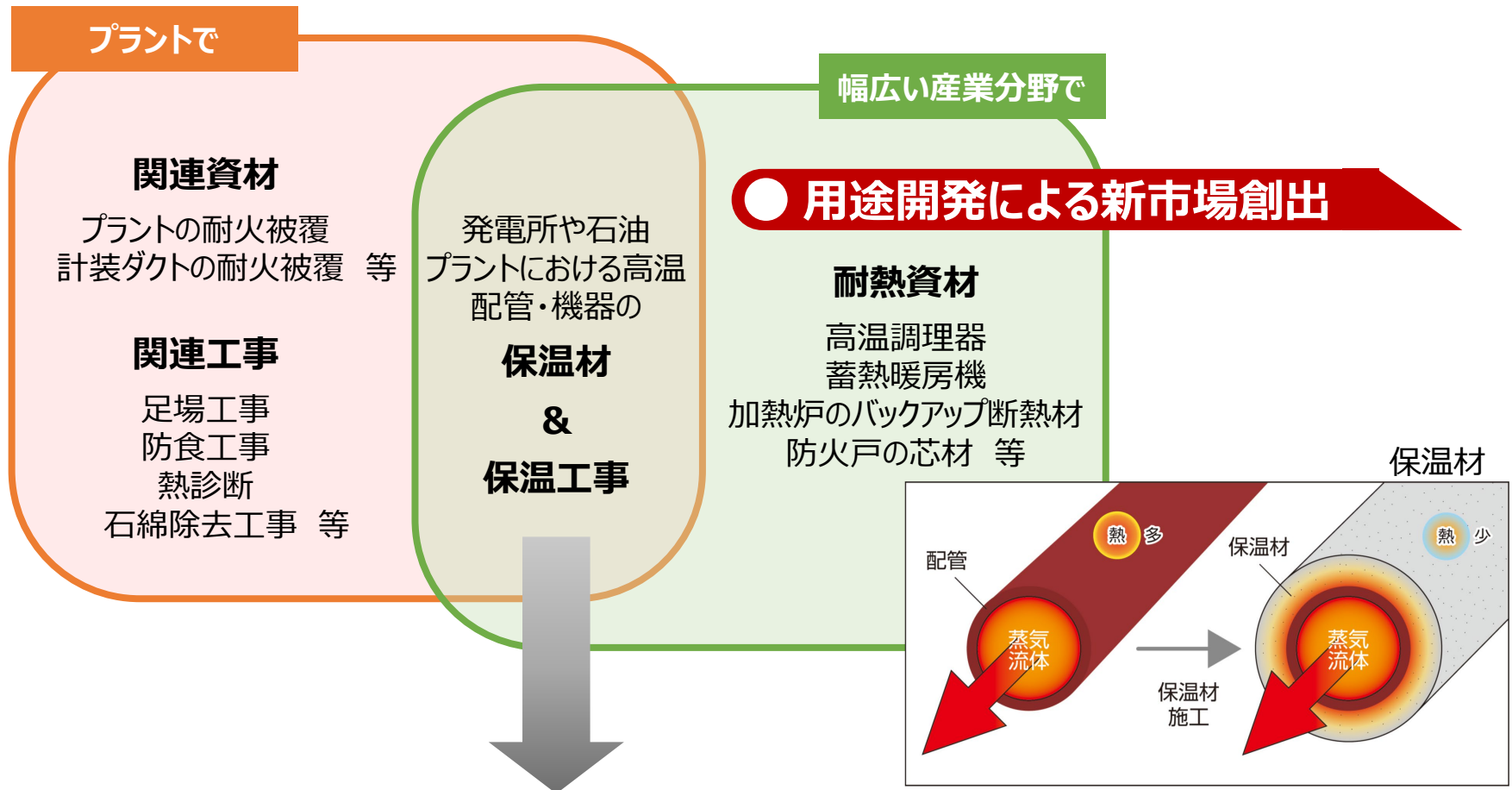


■ 煙突内側の断熱（煙突ライニング） 煙突ライニング材



ハイスタック





● 保温材事業の関連事業開発（既存市場の拡大・深耕）

相対的にシェアの小さい「工事施工」分野の規模拡大を目指して…

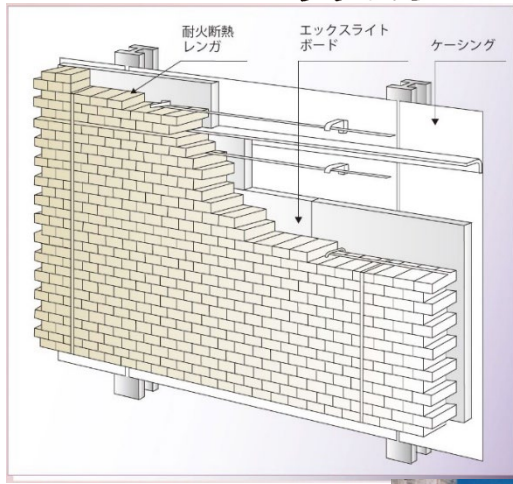
■ 常駐現場の拡大

→ 安定的な売上が確保できる常駐現場の拡大を推進

●保温材事業の関連事業開発（既存市場の拡大・深耕）

■ 保温工事に関連する新たな工事種類の開拓

各種炉のバックアップ断熱 エックスライト



➤ 熱診断



➤ 原子力発電所向けの 金属保温材による工事



高い耐熱性と断熱性を同時に要求される用途が得意です。熱のことならお任せください

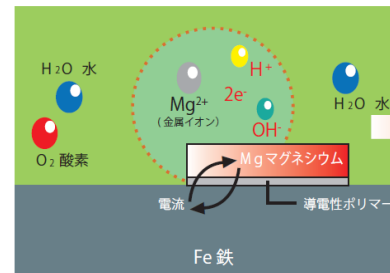
➤ 犠牲防食材を使った工事 （商品名：ぼうしょくたすけ）

プラントで使う保温材以外の資材を販売したり、保温工事と併せて関連工事も行っています



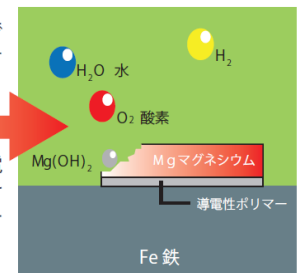
加熱炉

マグネラップ
のメカニズム
犠牲防食



①イオン化傾向の関で金属 Mg が Mg イオンと成って溶け出す

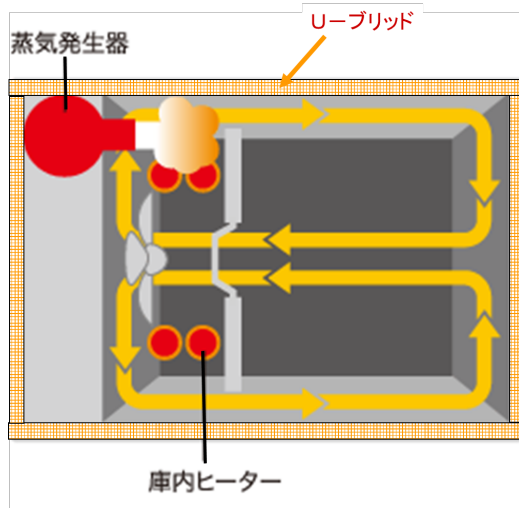
②Mg イオンが鉄に電気を運んで鉄が溶ける（腐食する）のを防ぐ



● 用途開発による新市場創出

■ 顧客ニーズを現場から収集し、ニーズに適した商品開発を推進

→ 高温になる用途で他の断熱材が適用できない用途での商品開発を積極化



オーブンレンジ（イメージ）



加工した保温材（イメージ）



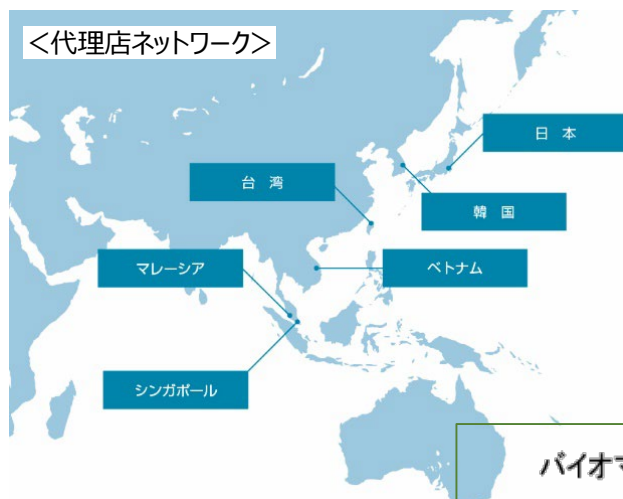
内部が数百度の高温になる機器向けに耐熱性が求められる部材として提供

内部の配管や機器の形状にあわせた部材として工場加工して提供



海外への展開（海外関連）

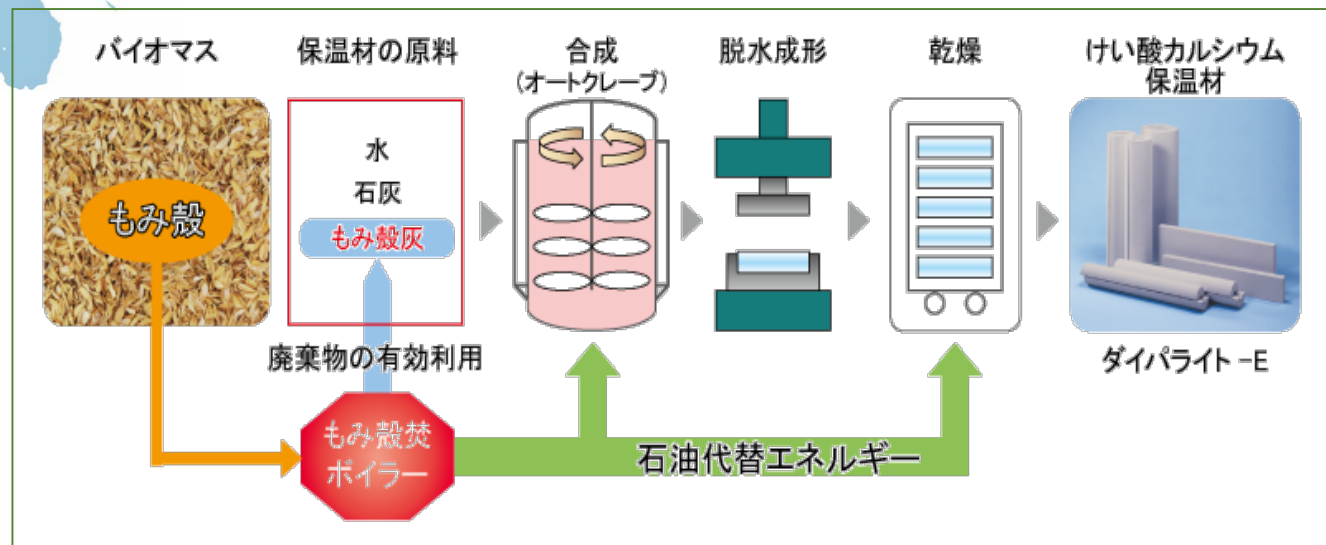
<代理店ネットワーク>



東アジア・東南アジアで
環境配慮型製品として
ベトナム工場製保温材の拡販

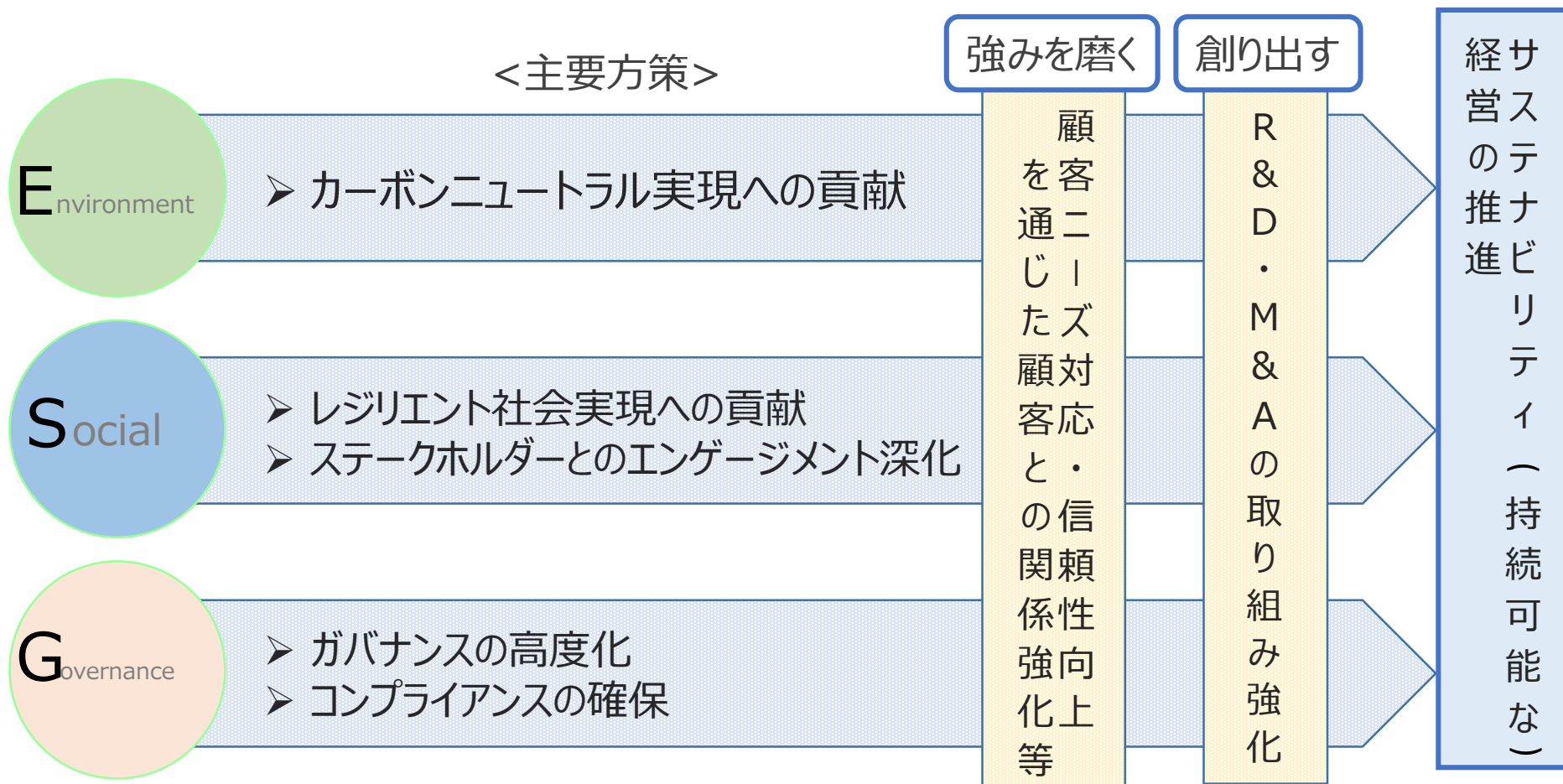
バイオマス（もみ殻）を
原料・燃料としている
保温材「ダイパライト-E」
が、温室効果ガス抑制に
つながることをセールスポイ
ントに拡販

- ・アンザン省人民委員会により環境配慮事業として認証
- ・2018年にUNIDO（国連開発機構）
東京事務所が運営する「環境技術データベース」に当社「ダイパライト-E」が登録
- ・LCA日本フォーラム奨励賞を受賞



今後の方針

2021年度を始期とする中期計画（2021年度～2023年度）



- ・プラント分野では、顧客の事業基盤が今後大きく変化していく。
電力、石油、化学、鉄鋼など業種ごとに、新しい需要への対応推進。
⇒ 今までの保温事業の拡張と、周辺・関連事業への参入・進出



- ・建築分野では、建物用途ごとに顧客のニーズも変わる。
⇒ 物流施設、オフィス、商業施設、工場、データセンターなど、
建物の特徴に応じた提案の推進
⇒ 建物の資産価値向上に貢献する製品を展開、開発
ESGへ貢献。



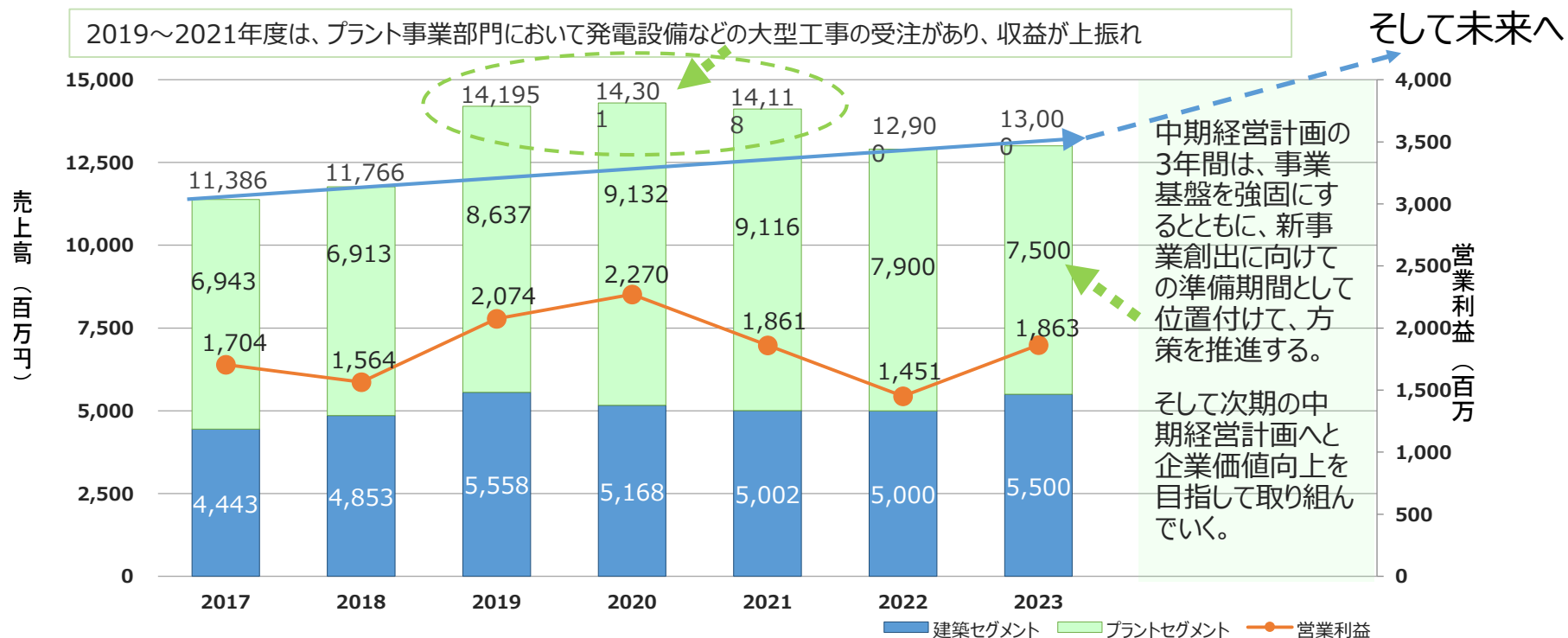
- ・新事業として、環境をテーマに、企業価値の向上のために、
高付加価値の技術・事業の開発を志向する。



- ・JICの生産工程もカーボンニュートラル化、廃材リサイクルも進める。



中期経営計画 事業計画

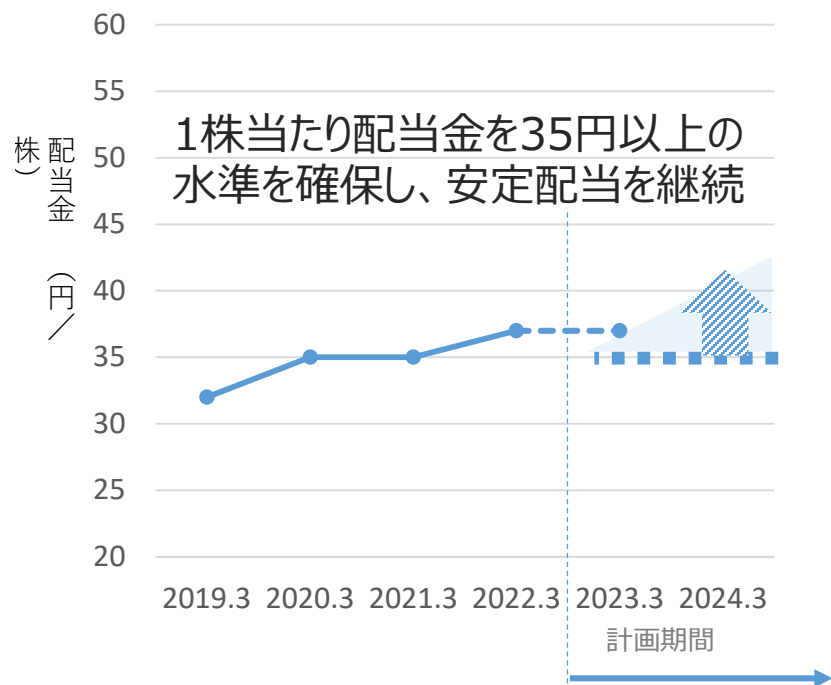


(単位：百万円)

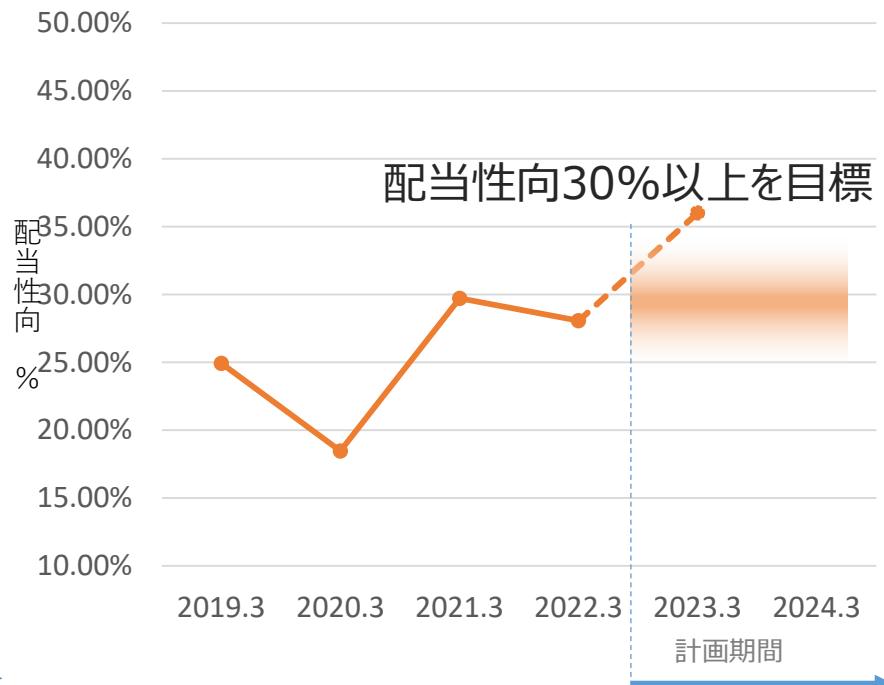
(連結)	2021年度			2022年度			2023年度
	計画	実績	達成率	計画	予想	達成率(予想)	計画
売上高	12,900	14,118	109.4%	12,950	12,900	99.6%	13,000
営業利益	1,716	1,861	108.4%	1,852	1,451	78.3%	1,863
営業利益率	13.30%	13.20%		14.30%	11.20%		14.30%
ROE	7.30%	9.80%		10.00%			9.50%

- 持続的成長と企業価値の向上を図ることによって、株主様に対して適切な利益還元を行うことを基本方針とする。具体的には、1株当たり配当金を35円以上の水準を確保しつつ、配当性向30%以上を目標として、安定した配当の継続に努める。
- **2023年3月期予想配当は37円。**

配当金の推移



配当性向の推移



トピックス

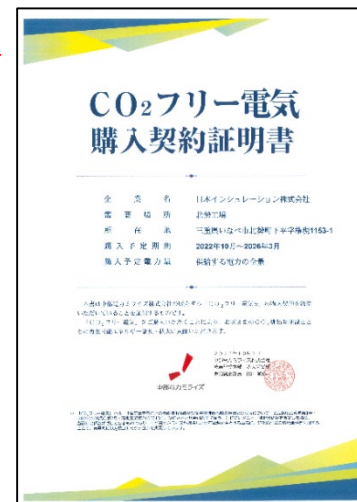
●生産・研究拠点のすべてでCO2フリー電気を導入

2022年10月1日から岐阜工場（岐阜県瑞穂市）及び北勢工場（三重県いなべ市）、2022年11月17日から岐阜R&Dセンター（岐阜県瑞穂市）で利用しているすべての電気に対し、CO2フリー電気を導入しました。

RE100に対応したCO2フリー電気を導入することによって、当社の岐阜・北勢地区の事業場から排出されるCO2を年間で約4800t-CO2削減できる見込みです。



カーボンニュートラルを目指して、
CO2排出削減計画を検討



● バイオマス由来けい酸カルシウム保温材で、初のJIS認証取得

完全子会社のジェイ アイ シー ベトナム有限会社にて製造している「ダイパライト-E」が、バイオマスから製造したけい酸カルシウム保温材として初めてJIS A9510（無機多孔質保温材）認証を取得いたしました。

■ JIS認証の内容 ■

認 証 日 : 2022年11月28日付
事 業 所 名 称 : JIC VIETNAM ONE MEMBER COMPANY LIMITED.
名称及び認証番号 : JIS A9510 無機多孔質保温材 TCVN22005
登 録 認 証 機 関 : 一般財団法人 建材試験センター (JTCCM)

「ダイパライト-E」の特長

- 反応と乾燥に使用する燃料として粃殻を使用し、CO2排出量を国内品に比して半減できる
- さらに焼却後の残渣をケイ酸質原料として活用し、廃棄物削減にも寄与できる
- これらのことが評価され、2022年1月に開催された第18回LCA日本フォーラム表彰式において、当社は奨励賞を受賞しました



● 執行役員制度の導入し、取締役を減員

2022年6月1日よりガバナンス強化の一環として執行役員制度を導入いたしました。

業務執行と監督を分離し、経営の意思決定機構の改革、意思決定の効率化を図り、取締役会の活性化、監督機構の強化を図ることを目的とします。

前) 取締役13名（業務執行9名 独立社外4名）

後) 取締役10名（業務執行5名 独立社外3名 非執行2名）／執行役員 4名

● 従業員に対する譲渡制限付株式付与

重要なステークホルダーである従業員の貢献に対する上場記念報奨として、従業員に対する譲渡制限付株式を付与いたしました。これにより従業員のモチベーション向上、中長期的な企業価値及び株主価値の持続的向上を図るインセンティブの付与を目的としております。

交付日：12月1日

対象者：274名、31,600株



● 岐阜地区の製品倉庫を集約し、JIC物流センター建設

- 工場周辺に点在する倉庫を集約することによって、入出庫作業の合理化・短縮化を図り、物流業務に係るJIC従業員及び運送会社の運転手・荷役業務の関係者等に対する安全や作業環境の改善を図ろうとするものです。
- また、入出庫に伴う製品搬送も移動距離を短縮できるなど、環境面でも改善が期待できます。

2023年3月期投資額 307百万円
着工：6月30日 竣工：12月1日



(参考) 決算実績等

2022年3月期連結決算実績サマリー

(単位：百万円)

	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期
売 上 高	11,386	11,766	14,195	14,301	14,118
営 業 利 益	1,675	1,564	2,074	2,270	1,861
経 常 利 益	1,626	1,510	2,024	2,220	1,891
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	1,457	980	1,464	1,023	1,145
1 株 あ たり 純 利 益	190.74円	128.29円	189.52円	117.76円	131.84円
1 株 配 当 金	30.00円	32.00円	35.00円	35.00円	37.00円



問合せ先

日本インシュレーション株式会社

管理本部経営企画部

TEL : 06-6210-1250

Email : jic-ir@jic-bestork.co.jp

〒542-0081 大阪府中央区南船場1-18-7

【免責事項】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がある点にご留意ください。